

土木学会教育論文集 査読報告書

査読者氏名

受付番号	No.	査読希望区分	1. 論文	2. 報告	3. 討議
題目					
著者名					

*査読にあたっての留意点

査読にあたっては、査読要領内規をお読みのうえ、適切な査読報告をお願いいたします。
特に注意していただきたい点を以下に示します。

* 査読期限を厳守してください。

査読期限は 2009年12月18日（金） です。

* 原稿の査読は登載の可否を判定するための資料を提供するもので、論文の根本にかかわる内容の改善を図るのが目的ではありません。原稿の内容に対する責任は本来著者が負うべきものであり、その価値は一般読者が判断すべきものです。査読員の主観や好みを著者に押しつけたり、原稿の体裁や書き方の完璧を期待する余り、将来の発展が大いに期待される原稿や実際に役立つ原稿を逃すことのないよう配慮して下さい。

* 査読報告では、「判定」、「評価」、「判定理由」、「講評」、「修正意見」の順で構成されております。「判定」の記載をされる際には、「評価」にあります、新規性、有用性、適時性、完成度、信頼度の各評価項目を勘案し、総合的な判定をお願いいたします。

【論文集編集委員会へのコメント（判定、評価および判定理由）】

- ・「1. 登載は適当でない」および「2. どちらかといえば登載すべきでない」の場合、その理由を「1. 登載は適当でない」、「2. どちらかといえば登載すべきでない」の理由欄から選んでください。判定理由は、「1. 登載は適当でない」および「2. どちらかといえば登載すべきでない」の場合には、必ず具体的な内容を判定理由欄にわかりやすく簡潔にお示し下さい。「1. 登載は適当でない」および「2. どちらかといえば登載すべきでない」以外の場合であっても、著者に直接渡る講評には書きづらい判定理由等あればこの判定理由欄にお示し下さい。なお、この判定および判定理由は著者に直接には渡りません。
- ・評価は、各項目の内容を良く理解したうえで、御判定ください。例えば、完成度は研究の完成度ではなく、論文自体の完成度を問うものですので、誤解の無いようお願いいたします。なお、この評価は著者に直接には渡りません。

【著者へのコメント（講評および修正意見）】

- ・講評欄には、論文（報告、討議）としての優れた点、問題となる点、論文修正のポイントなどを含め、全般的な意見を書いてください。判定理由と内容が重複することになるのは当然のことであり、重複しても構いません。なお、この講評と修正意見は著者に直接渡るものとお考え下さい。

* 意見を述べる場合、査読員の主観的な意見や好みに基づいた内容にならないよう特に注意して下さい。

判 定（論文の判定を5段階でお示し下さい。）				
5. 是非登載すべき	4. 登載すべき	3. 登載してもよい	2. どちらかといえば登載すべきでない	1. 登載は適当でない
再査読への希望 1. あり 2. なし				
討議の希望の有無（編集委員会では活発な討議を希望しております。） 1. 希望する 2. 委員会からの要請があれば投稿する 3. 無し				

評 価（判定の理由になるものです。原稿の内容に具体的な評価をお示し下さい。評点の該当する数字に丸印を付けて下さい。）	
新 規 性（内容が公知・既発表または既知のことから容易に導き得るものではないこと。）	
評 点 4 あ り 3 ややあり 2 さほどなし 1 な し	下記の項目について、優れていると思われる項目があれば「○」を、劣っていると思われる項目があれば「×」を、各項目の前にある【 】に記入してください。なお、該当しない項目については「○」または「×」をつける必要はありません。 【 】a)主題、内容、手法に独創性がある。 【 】b)学会、社会に重要な問題を提起している。 【 】c)技術者（教育者・研究者を含む）の教育、人材の育成に貢献している。 【 】d)十分な検討または実績に基づき、創意工夫に満ちた教育計画、人材育成等の方法が提示されている。 【 】e)困難な教育や人材育成をなしとげた成果が含まれている。 【 】f)時宜を得た主題について、新しい知見と見解を示している。 その他（上記項目以外に何かあれば、以下にお書き下さい。）
有 用 性（内容が技術者教育上、人材育成上、その他技術の向上において何らかの意味で価値があること。）	
評 点 4 あ り 3 ややあり 2 さほどなし 1 な し	下記の項目について、優れていると思われる項目があれば「○」を、劣っていると思われる項目があれば「×」を、各項目の前にある【 】に記入してください。なお、該当しない項目については「○」または「×」をつける必要はありません。 【 】a)主題、内容が時宜を得て有用である。 【 】b)論文報告内容の応用性、有用性、発展性が認められる。 【 】c)教育企画・人材育成に関する取り組みや提案などが有用な情報を与えている。 【 】d)提示されるデータや資料が技術者教育を進展させ人材を育成する上での参考として寄与する。 【 】e)提示された情報が応用に便利である。 【 】f)教育企画・人材育成など技術者教育の体系化をはかり、将来の展望を図っている。 【 】g)提示された情報や知見は今後の教育企画・人材育成に取り入れられる価値を持っている。 【 】h)本原稿を掲載することは会員・読者・社会に益するところが多い。 【 】i)問題提起、試論またはそれに対する意見として有用である。 その他（上記項目以外に何かあれば、以下にお書き下さい。）
適 時 性（内容の完成度や緻密さが完全に満たされていることよりも、社会情勢の変化を反映してこの時期に発表することに何らかの価値があること。）	
評 点 4 あ り 3 ややあり 2 さほどなし 1 な し	下記の項目について、優れていると思われる項目があれば「○」を、劣っていると思われる項目があれば「×」を、各項目の前にある【 】に記入してください。なお、該当しない項目については「○」または「×」をつける必要はありません。 【 】a)最近に起こった社会の変化や事件に関する調査結果や知見を報告している。 【 】b)教育企画・人材育成上への取り組みに対する重大な成果を含んでおり、その発表を早めることが学界、社会に大きく貢献すると判断されるもの。 【 】c)時期を得た主題について、早急に必要とされる新しい知見・見解を示している。 【 】d)学界、社会に対してこの時期に解決すべき問題を提起している。 【 】e)学界、社会がこの時期に必要な情報を提供している。 その他（上記項目以外に何かあれば、以下にお書き下さい。）
完 成 度（内容が簡潔で明快に記述されていること。本文の展開が読者に理解できるように記述されているか評価する。ただし、著しい厳密さ、正確さ、完璧さ、格調の高さ等は必要としない。）	

評 点 4 あ り 3 ややあり 2 さほどなし 1 な し	下記の項目について、優れていると思われる項目があれば「○」を、劣っていると思われる項目があれば「×」を、各項目の前にある【 】に記入してください。なお、該当しない項目については「○」または「×」をつける必要はありません。 【 】 a) 全体の構成が適切である。 【 】 b) 目的と結果が明確である。 【 】 c) 既往の情報や知見との関連性は明確である。 【 】 d) 文章表現は適切である。 【 】 e) 図・表は分かり易く作られている。 【 】 f) 全体的に冗長になっていない。 【 】 g) 図・表などの数は適切である。 その他（上記項目以外に何かあれば、以下にお書き下さい。）
---	---

信 頼 度 （内容に重大な誤りが無く、また読者から見ても信頼できる内容であること。）	
評 点 4 あ り 3 ややあり 2 さほどなし 1 な し	下記の項目について、優れていると思われる項目があれば「○」を、劣っていると思われる項目があれば「×」を、各項目の前にある【 】に記入してください。なお、該当しない項目については「○」または「×」をつける必要はありません。 【 】 a) 重要な文献や情報が落ちなく引用され、公平に評価されている。 【 】 b) 従来からの教育企画・人材育成の取り組みとの比較や評価がなされ、適正な結論が導かれている。 【 】 c) 本論文報告を作成する上での前提条件や社会状況が明確に記述されている。 その他（上記項目以外に何かあれば、以下にお書き下さい。）

判定理由（「1. 登載は適当でない」 および 「2. どちらかといえば登載すべきでない」 の場合には、必ずお書きください。）

「1. 登載は適当でない」、「2. どちらかといえば登載すべきでない」の理由 (論文・報告の場合には1～4の該当項目に○印を付けて下さい。)			
1 誤り	a) 論旨または思考過程に客観的・本質的な誤りがある。	2 既発表	f) 明らかに既発表とみなされる。
	b) 論文・報告に記載された成果の根拠となる情報の分析方法やデータの解釈・処理に誤りがある。		g) 連携形式で論文が構成されており、独立した論文・報告と認めがたい。
	c) 事象の解釈や思考にあたり、明らかに不相応な論理体系を当てはめて本文が構成されている。		h) 他人の論文や報告をあたかも本人の知見であるかのごとく記述して本文の基本が構成されている。
	d) 都合のよい情報や文献のみを利用して議論が進められ、明らかに公正でない記述により本文が構成されている。		
	e) 修正を要する根本的な指摘事項をあまりにも多く含んでいる。		
3 レベルが低い	i) 通説が述べられているだけで新しい知見がまったくない。	4 内容全体・方針	n) 政策的な意図、あるいは宣伝の意図がきわめて強い。
	j) 多少の有用な資料は含んでいても、論文・報告にするほどの価値は見られない。		o) きわめて片寄った先入観や思想・信条にとらわれ、原稿全体が独断的に記述されている。
	k) 論文・報告にするには明らかに検討内容などがある水準にまで進展していない。		p) 記載内容の主観性が強く、事象・事実に基づいた客観的判断が含まれていない。
	l) 着想が悪く、当然の結果しか得られていない。		q) 私的な興味による色彩がきわめて強く、論文集に掲載するには問題が多い。
	m) 記載された内容が単に他分野で使われている方法の模倣で、意義を持たない。		r) 学会としての本来の方針、目的に一致していない。

(このページ以降の「講評」と「修正意見」は著者に直接渡るものとお考えください)

講評 (判定結果のいかんに関わらず、必ずお書きください)

(/)

修正意見

修正意見の分類

- 1 修正が必要な事項
- 2 修正が望ましい事項
- 3 その他（論文の内容ではなく、記号、
図表、単位系の誤りなどやコメント）

[illegible]

[illegible]